

「深川仲町通り商店街・月島西仲通り商店街見学会」

豊島区中小企業診断士会 井手上 悟

11月7日（土）に恒例の豊島区診断士会による秋の見学会が開催されました。例年、特徴のある商店街の見学を行っています。昨年度は、昭和レトロ発祥の地である青梅商店街を見学しています。今年度はもんじゃで町おこしを行っている月島西仲通り商店街と深川仲町通り商店街を見学いたしました。参加者一同の日頃の心がけが良いのか、当日は晴天に恵まれ大変気持ちの良い見学会となりました。

深川仲町通り商店街にて

まずは都営大江戸線の門前仲町駅へ集合し、深川仲町通り商店街を見学し、富岡八幡宮、深川不動尊へお参りをしました。豊島区診断士会では地域・おもしろマーケティング（豊島区の各商店街できらりと光るお店を見つけて表彰する）も実施しており、深川仲間通り商店街の各店舗を「あーでもない、こうでもない」と参加者各自の自慢の感性？で意見交換をしながら散策をしました。

富岡八幡宮は横綱の碑と大関の碑があり手型足型などを刻んだ石碑があります。

又、日本一の黄金の神輿もあります。

当日は七五三の時期と重なっており着物を着た子供たちがいっぱいでした。



富岡八幡宮で参加者一同



横綱の碑と大関の碑ですがやはり格が違いますね

月島西仲通り商店街

次に有楽町線月島駅まで移動し、月島西仲通り商店街で顧問をされている寺本様よりもんじゃでの町おこしの秘話を聞くことができました。

商店街は400mあり100m毎に1番街～4番街まであります。アーケードは下町風情を残す三角形の形とされており、明り取りのテントは東京ドーム球場に使用されている生地と同じものだそうです。



4番街より見た商店街



三角形の形の明り取り

昔、もんじゃは、東京下町の駄菓子屋で、子供がおやつとして食べられていたそうです。交通の便利な下町では、町の再開発が進み、住民が入れ替わるとともに、駄菓子屋が次々と消えていきましたが、交通不便な月島では、地下鉄開通までは、まだ、古い町並みと住民が残り、子供の食べていた駄菓子が、大人の食べ物に発展していきました。お好み焼き屋のメニューであったもんじゃは30年前には4軒ほどしかなかったそうですが、この狭い月島に、1980年ごろで、大人相手のもんじゃ屋が10軒くらいでき、お互いの競争から、いろいろな味付けや変り種のトッピングが工夫され、多くの人に愛される今のもんじゃが出来上がりました。そして、TVや雑誌に取り上げられ、有楽町線に乗って多くの人々が月島に来られ、「もんじゃは美味しい」と喜んでいただけるようになり、今では、日本全国どころか、海外からも来街者がいるそうです。2000年には、大江戸線も開通し、今は月島のもんじゃ屋の店舗数は80軒あり、商店街では50軒が加入されているそうです。

現在では従来より来店者が減少しているが、1軒たりとも閉店はないとのことでした。

説明を聞いた後は恒例の懇親会へ歩を進め、名物のもんじゃの味に舌鼓を打ちました。もんじゃを焼く際には日頃の料理自慢が腕を振るう活躍の場と相成りました。現在は餅入り明太もんじゃが人気となっているようです。皆様もぜひ一度は訪れてみては如何ですか。